

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！

# ネットワーク

## Network

NO.366 2020年

# 6月号

特集

## 新型コロナウイルスと ボランティア・市民活動

あすマネ

オンラインの活動って、どんな感じ？  
～セルフヘルプグループの場合～

思い立ったがボラ日

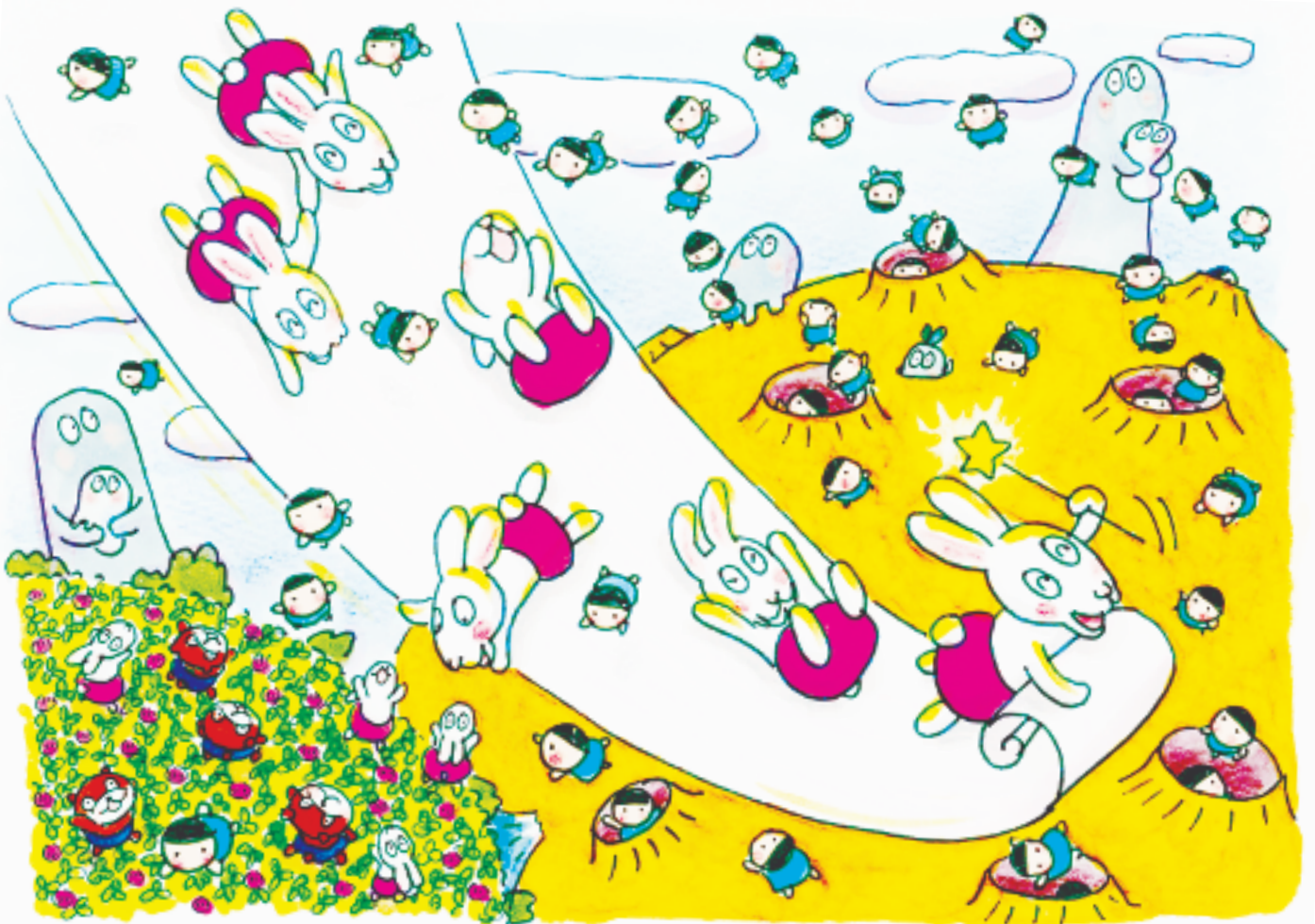
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
絵本を届ける運動に参加

いいもの みい～つけた！ vol.25

ホープ就労支援センター渋谷 アトリエ福花（ふっか）  
「渋谷みやげ」としても販売中！！

TVAC News vol.6

「ゆめ応援ファンド」助成決定  
新刊『ボランティア・市民活動  
助成ガイドブック2020－2021』





読み聞かせの様子。『しっぽのはたらき』 福音館書店／写真提供＝シャンティ国際ボランティア会  
／©Yoshifumi Kawabata

## 思い立ったが ジツ ボラ日

このコーナーでは、毎回一つの団  
体取材し、活動内容やそこで  
活動するボランティアさんの生  
の声をお届けします。

「在宅勤務になったら時間に余裕ができたので、家でできるボランティア活動があればやりたいのですが」「ボランティアで関わっていたサロンが長期の休みに入ってしまったのですが、再開までの間にできる活動はありませんか」

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、家での自粛を求められた2020年の春、当センターにはこのような相談が寄せられるようになりました。そこで、今回は在宅でできるボランティア活動についてご紹介します。

### お金の寄付やお金に換金できる 収集ボランティア活動

ボランティアを受け入れている側のNPOや市民活動団体からは、運営資金が足りなくなることに不安とともに、運営支援や助成情報についてのご相談やお問い合わせが増えていきます。もともと、お金のまつわ



東京ボランティア・市民活動センターでは、使用済み切手、プリペイドカード、ベルマークを集めて寄付しています。

るご相談は多くありましたが、このたびの感染防止対策と自粛に伴い、一層大きな課題になったことを実感しています。「活動を縮小して続けているけれど、支出ばかりで事業収入がない」「活動は休止していますが、事務所の家賃など、お金がかかっています」といった声も寄せられています。

こうしたなか、NPO・市民活動団体にとって、お金の寄付は大きな支援につながります。応援したい団体に直接寄付したり、「子ども支援団体緊急応援」「福祉活動支援」などのテーマで呼びかけているクラウドファンディングに参加する方法もあります。

とはいえ、減収してしまい、お金の寄付が難しいという方も多くいらっしゃいます。そこで、家にあるものを寄付してお金に換えるという方法もあります。使用済み切手やプリペイドカード、ベルマーク、書き損じはがきといったものは少量では換金は難しいものの、



市民活動団体による物品寄附のチラシ。





絵本を手にする子どもたち。「ぶどう畑のアオさん」  
こぐま社／写真提供＝シャンティ国際ボランティア会／©Yoshifumi Kawabata



移動図書館活動。写真提供＝シャンティ国際ボランティア会／©Yoshifumi Kawabata



『ぐりとぐらのおきやくさま』福音館書店／写真提供＝シャンティ国際ボランティア会／©Yoshifumi Kawabata

### 絵本の翻訳シール貼り

「絵本を届ける運動」は、公益社団法人

それらを受け入れている地域のボランティアセンターやNPOなどに寄付することができます。DVDやブルーレイディスク、未使用のブランド品や貴金属など、「家で眠っているお宝」を募っている団体もあります。また、オンラインを使ったフリーマーケットに出品してお金に換え、寄付している人もいます。

**普段のつながりを生かした活動**

普段つながりのあるNPOに対し、アルコール消費などの衛生用品やマスクの寄付をしたり、家族との面会や外出がかなわない施設の高齢者へ手紙やはがきを送ったり、子ども向けにオンラインで勉強やダンスを教えるなど、先方の状況に合わせてボランティア活動をした方々も多くいらっしゃいました。

一方で、つながりを持たない方々が在宅のボランティア活動をするとすると、残念ながら情報が少ないのが現状です。このような方々が、全国どこにいても在宅でできる活動の一例として「絵本を届ける運動」をご紹介します。編集部も参加して体験してみました。

公益社団法人

シャンティ国際ボランティア会

<https://sva.or.jp/>

東京事務所  
〒160-0015  
東京都新宿区大京町 31  
慈母会館 2・3F  
TEL：03-5360-1233（代表番号）  
FAX：03-5360-1220  
月～金（土・日・祝日休）



次ページでは  
活動内容を紹介しています

シャンティ国際ボランティア会の取り組みです。このプログラムは、良質な本が不足し、本を知らないアジアの子どもたちに絵本を届ける活動です。ボランティアの役目は、日本語の本文の上に翻訳シールを貼ること。「簡単すぎる」と思う方もいると思います。今回、体験したスタッフもそう考えていました。が、気をつけないと、現地語がわからないうのでシールを貼る場所を間違えそうになったり、日本語の文字がはみ出しそうになったり…決して楽ではありません。そのかわり、仕上がったときの達成感是非常にありました。本誌356号のこのコーナーでも翻訳文を貼る作業の様子をレポートしています。このときは、NPO法人地球の友と歩む会／LIFEの「夏の体験ボランティア」を取材させていただきました。



# 編集部が体験してみました！



1

ホームページには「絵本を届ける運動」のしくみや活動の趣旨などがわかりやすく書かれています。



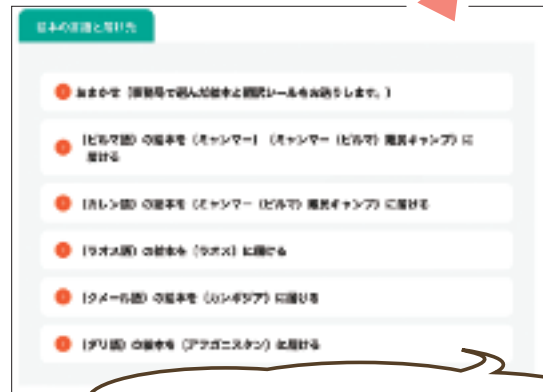
2

まず、参加の方法を読んで…



4

10冊のなかから、イラストの好みと難易度で本を選んでカートへ。送付先や支払方法などを入力し、申込完了。  
『しんせつなともだち／福音館書店』（⑤⑥も同）



3

届けたい国や言語をチョイス！



6

完成した絵本を返送（元払い）しました。こんな笑顔を想像するとワクワクします！ 写真提供＝シャンティ国際ボランティア会／© Yoshihumi Kawabata



5

日本語の上に翻訳文を貼り付けます。



## 深める

ボランティア・市民活動に役立つ視点や情報をお届けします。



# 新型コロナウイルスと ボランティア・市民活動

- 6 新型コロナウイルス対応に関する緊急アンケートから  
◇①居場所団体、②介護者支援団体、③民間相談機関連絡協議会 会員団体、  
④民間助成団体・NPO 対象融資金融機関
- 12 「新型コロナ」の中でのボランティア・市民活動 参考事例集  
いま、できる活動って？
- 15 **寄稿** コロナ禍におけるシュール大学の取り組み  
◇長畑 洋 (シュール大学 学生)
- 17 **あすまね** オンラインの活動って、どんな感じ？  
～セルフヘルプグループ (SHG) の場合～

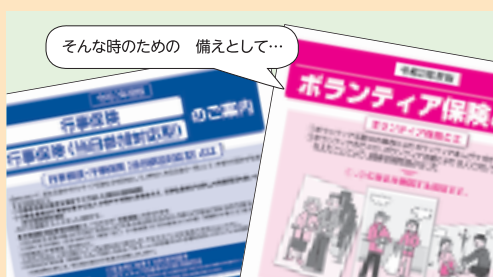
## 知る

ボランティア・市民活動のさまざまな形やボランティアに  
一歩ふみだすヒントを、ご紹介します。

- 1 思い立ったがボラ日 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会／絵本を届ける運動に参加
- 21 TVAC News Vol.6 2020 年度ボランティア・市民活動総合基金「ゆめ応援ファンド」  
助成決定  
『ボランティア・市民活動 助成ガイドブック 2020 - 2021』
- 22 つぶやきブレイク vol.13 好きなこと、年をとること
- 23 特別企画 都内区市町村ボランティア・市民活動センター向け 第2回アンケート調査結果
- 26 いいもの みい〜つけた！ vol.25 ホープ就労支援センター渋谷 アトリエ福花(ふっか)  
「渋谷みやげ」としても販売中！！

## もしもボランティア活動中に怪我をしたら… 怪我をさせたり、物を壊したら…

※ボランティア保険および行事保険の加入は、東京都内の各区市町村のボランティアセンターまたは東京都社会福祉協議会窓口で手続きができます。



東京都社会福祉協議会指定生損保代理店  
有限会社 東京福祉企画

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-2  
研究社英語センタービル 3階

TEL. 03-3268-0910  
FAX. 03-3268-8832  
URL. <http://www.tokyo-fk.com/>



## 特集 新型コロナウイルスと ボランティア・市民活動

新型コロナウイルスはあっという間に世界中に広がり、生活様式や経済の変容をもたらした。

感染拡大による非常事態のもとでは、社会的に弱い者から順に追い詰められていく。多くの自営業者や中小企業などが休業や「開店休業」に追い込まれ、非正規雇用層で失業が広がるいっぽう、政府による経済支援策は迅速かつ充分とは言えず、多数の困窮者を生み出した。また、学校の休校や施設の利用制限、さらには外出自粛要請によってさまざまな社会活動がストップし、その陰で安心できる居場所を失い、生きづらさを抱え込んでしまった人が生じている。未経験の社会課題が気づつぎに表出しつつある状況だ。

ボランティア・市民活動分野においても影響は大きく、多くの団体が活動の方向転換を余儀なくされている。今号では、東京ボランティア・市民活動センターが行ったボランティア・市民活動団体へのアンケート結果や事例から、直面している課題や活動の工夫、新たな取組みなどをまとめ、この状況を乗り切るヒントを探りたい。

# TVACによる新型コロナウイルス対応に関する緊急アンケートの概要

〈調査期間 4月10日～4月22日〉

新型コロナウイルスの感染が、国内で初めて確認されたのが1月16日、まもなく都内においても感染者が発生しました(1月24日)。感染は徐々に広がり、ひと月経つ間に、私たちの日常生活はにわかに変まりました。3月に入ると学校が休校し、一部の

公共施設では利用が制限・停止され、地域のイベントや行事、定例の会合に至るまで、次々と中止または延期されたことは記憶に新しいところです。4月7日の緊急事態宣言後には、当センター(TVAC)を含む都内のボランティア・市民活動センターの

およそ6割がやむなく開館時間の短縮や利用の制限、あるいは休館することになりました(23～24ページ参照)。都内区市町村ボランティア・市民活動センター向け第2回アンケート調査より)。

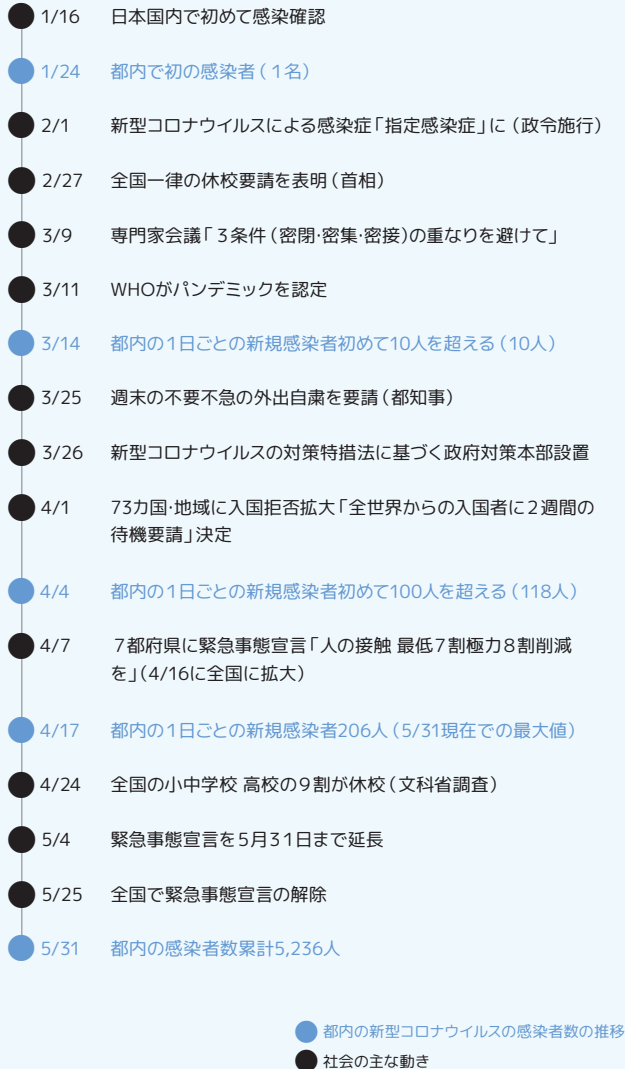
このように新型コロナウイルスの感染が急速に拡大する中、TVACではボランティア・市民活動団体の対応状況を把握するためにアンケート調査を実施しました。調査対象は、地域の居場所の活動団体\*、介護者支援の活動団体、民間相談機関連絡協議会会員団体、民間助成団体・NPO対象融資金融機関で、TVACとネットワークのある団体の皆さんを中心に、ご協力をお願いしました。

質問では、活動や事業の実施状況に加えて、感染防止対策、利用者などに対する新たな取り組み、周辺地域の生活上の課題、団体の運営や事業上の課題、今後予想される課題や方向性などについてご回答いただきました。

次ページからアンケートの集計結果について要約をご紹介します。

\* 地域の居場所の活動団体には都内の区市町村ボランティア・市民活動センターなどにも調査にご協力をいただきました。

## 都内における新型コロナウイルス感染者数の推移と社会の主な動き



TVAC調べ。参考資料/NHK特設サイト新型コロナウイルス、東京都新型コロナウイルス感染症対策サイト、2020/5/30付朝日新聞

# ●新型コロナウイルス対応に関する緊急アンケートから [1]

## 居場所団体

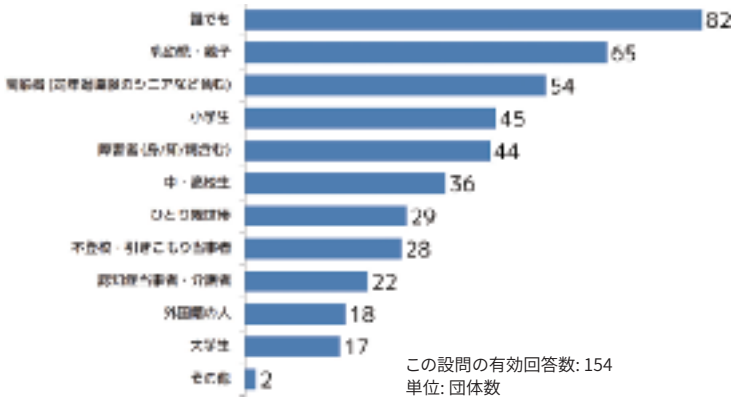
- (1) 期間：2020年4月10日～17日
- (2) 対象：都内および近郊の居場所団体※
- (3) 有効回答数：154団体
- (4) 主な質問項目：

- ①新型コロナウイルスに関する居場所の実施状況
- ②居場所での感染防止対策
- ③自粛対応に伴い生活に影響を受けた利用者に対する新たな取組みの実施
- ④居場所の利用者や周辺地域の市民の生活上の困りごとの相談
- ⑤感染対策に伴う運営上・事業上の課題

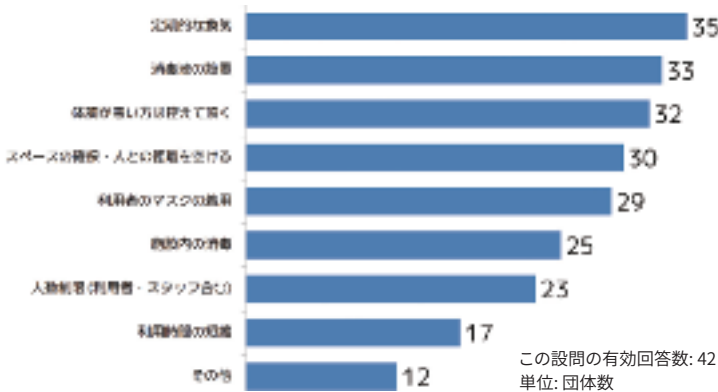
《調査結果のポイント》9割以上の団体が活動を中止・縮小しながらも、3割近くが新たな取組みを行っています。開催時間を短縮して日数を増加したり、メール、電話、オンラインなどを使用してつながりを保つ工夫をしている団体もありました。アンケート時には、運営についてそれほど不安はないという団体もありましたが、利用者の心身に関しては懸念している団体が多くありました。

※社会福祉協議会が直接的に運営するサロンは除く

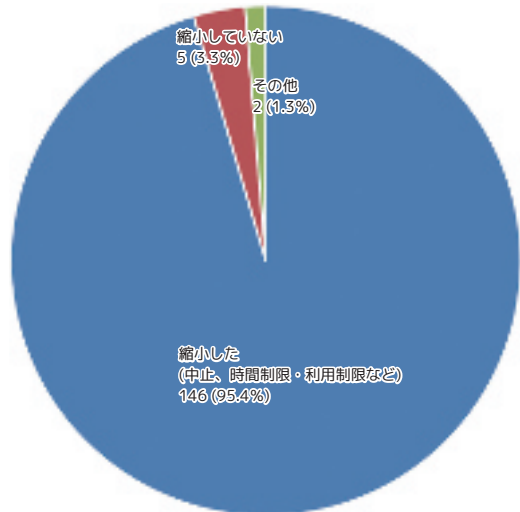
### ●主な利用対象者（複数回答可）



### ●居場所を実施する際の感染対策（複数回答可）



### ●居場所の活動状況 単位：団体数



**主な利用対象者**  
回答した団体が開く居場所の主な利用対象者では「誰でも」が半数以上（53.2%）でした。続いて、乳幼児・親子（42.2%）、高齢者（35.0%）、小学生（29.2%）、障害者（28.5%）となりました。

**居場所の活動状況**  
9割超の居場所団体が「活動を縮小した（中止、時間制限・利用制限など）」と回答。

**居場所の活動縮小の内容**  
最も多いのが「全面的に活動を中止した」という回答でした。具体的には、①当面活動中止、②会場が使えないため中止、③段階的に活動中止という回答。「一部の機能を中止した」という回答では、①イベントの中止、②食事提供の中止、③個別対応は継続、というものでした。「やり方を工夫して実施している」という回答では、①お弁当の配布、②電話・メール等で連絡、③WEB会議ツールを使用し実施、④登録者のみ予約制で実施、⑤時間短縮、⑥人数制限、⑦屋外で実施、⑧感染予防対策の強化などさまざまな工夫がみられました。

**居場所を実施する際の感染対策**  
居場所を実施する際の感染対策



として8割超が「定期的な換気」  
8割超が「消毒液の設置」「体調  
が悪い方は控えて頂く」「7割が  
「スペースの確保・人との距離を  
空ける」「利用者のマスクの着用」  
という対応を実施。「その他」の  
回答では、「手洗い」と「検温」が  
複数の団体でみられました。

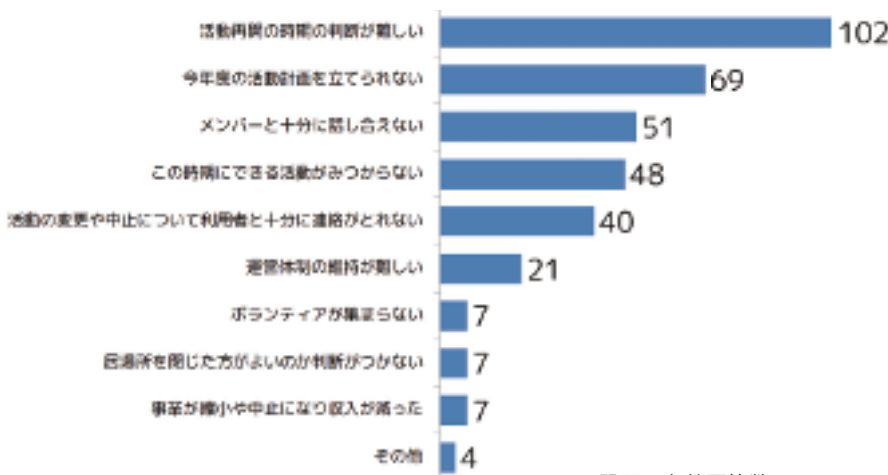
生活に影響を受けた利用者への  
新たな取組み

約6割が生活に影響を受けた利  
用者への新たな取組みを「行っ  
ていない」と回答。一方、新たな  
取組みを「行っている」と回答し  
た団体は約3割。

新たな取組みの内容

新たな取組みの内容では、さま

●団体の運営面の課題（複数回答可）



この設問の有効回答数: 138  
単位: 団体数

さまざまな手段で連絡を取り合う取  
組みが複数見られました。①W  
EBでの居場所開催、②SNS  
でのつながりづくり、③電話・  
メールでの安否確認・状況確認、  
④はがき・手紙の送付などの回  
答でした。

情報発信を強化している団体も  
複数あり、多かったのは①通信  
を発行、②WEBサイトで情報  
発信というもの。

必要なものを配布する、という  
回答もありました。具体的には、  
①弁当やお菓子の配布、②マス  
クの配布、③物資配布、④その他  
さまざまなものを個別配布。

「その他」では①開催日数の増加、  
②訪問事業として対応、③ネッ  
トショップの立ち上げ、④スマー  
トフォンのレンタル、⑤公園で  
子どもを連れた親に声掛けす  
るなどの回答が見られました。

利用者や周辺地域の生活上の  
困りごとの相談

居場所の運営者が受けたり耳に  
したのは不安・閉塞感・ストレス  
の相談です。具体的には、①外出  
制限による閉塞感、②感染リス  
クに伴う不安、③人と対面でき  
ないことによる孤立のストレス、  
④話し相手の不在によるストレ  
スといった回答がありました。  
行く場所がないという相談も見  
られました。①日中過ごす場所  
がない、②暇を持て余す、③一人

で抱え続ける辛さ、といった回  
答です。

子どもに対する懸念も多くあり  
ました。①勉強の遅れ、②体力  
の低下、③生活リズムの乱れ、  
④遊び場所がないことによる体  
力・ストレスの発散不足、⑤学校  
給食がないことによる食生活の  
乱れ、栄養不足、⑥乳児の行き場  
がない、⑦休校・休園による不登  
校児への悪循環、という回答が  
みられました。

家庭内に対する懸念では、①子  
どもと過ごす時間の増加による  
母親の肉体的・精神的な負担の  
増加、夫婦仲の悪化、②DV・虐  
待の悪化、③障がい児の支援の  
悩み、といった回答がありまし  
た。

高齢者に対する懸念では、①運  
動不足による身体機能の衰え、  
②孤立による会話能力の低下、  
認知症の進行、③生活管理、体調  
管理(命に関わる場合も)という  
回答がありました。

収入が減ることによる生活面の  
不安では、①休校・休園による仕  
事の制限、支出の増加、②減収、  
失業といった回答でした。  
その他では、①団体の活動縮小・  
休止による不向き、②感染予防・  
感染後への不安という回答がみ  
られました。

団体の運営面の課題

7割超が「活動再開の時期の判

断が難しい」と回答。続いて半数  
の団体が「今年度の活動計画を  
立てられない」と回答していま  
す。

3割強が「メンバーと十分に話  
し合えない」とこの時期にできる  
活動が見つからない」と回答。

今後、想定される課題

利用者や家族の生活の質の変化  
に関する回答が多くみられまし  
た。具体的には、①高齢者の体調  
の悪化・認知症の進行、②子ども  
たちの心のケアの必要性、③子  
どもの教育格差・学習の遅れ、④  
子育て中の親の負担増加、⑤ス  
トレスの増加、⑥虐待、DVの増  
加、⑦孤立死や孤立感の増加、⑧  
情報格差の増大、⑨外国人への  
情報提供、⑩その他。

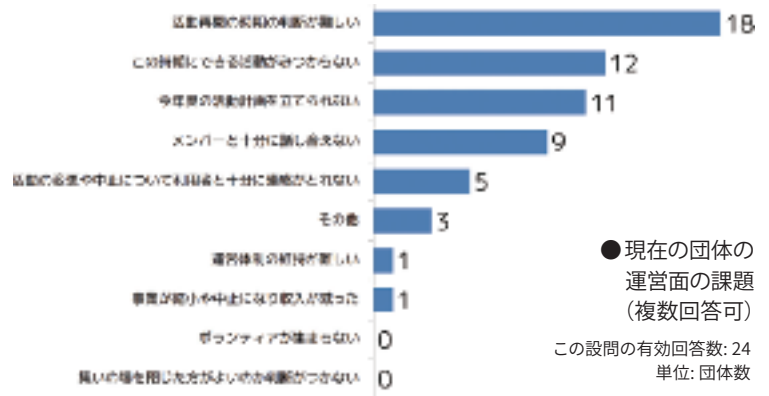
運営面に関する課題・不安に関  
しては、①運営資金の不安、②今  
年度の活動の予定が立たない、  
③再開時期の目途が立たない、  
④居場所団体としてどこまで対  
応できるか、⑤これを機に活動  
を終了するかどうか、という回  
答がありました。

活動・事業再開時の不安に関し  
ては、①再開時の利用者の継続  
参加の不安、②再開時の対応の  
不安があるというもの。  
スタッフ・ボランティアのケア  
や人材確保については、スタッ  
フのモチベーションやボランティ  
ア減少への課題がありました。

# 介護者支援団体

- (1) 期間：2020年4月15日～21日
- (2) 対象：都内および近郊の介護者支援活動団体（サロン、カフェ等）80団体
- (3) 有効回答数：24団体（回答率30%）
- (4) 主な質問項目：
  - ① 新型コロナウイルスに関する介護者支援の活動の実施状況
  - ② 介護者が集う場での感染防止対策
  - ③ 自粛対応に伴い生活に影響を受けた介護者に対する新たな取組みの実施
  - ④ 介護者自身や介護者を取り巻く周辺地域の市民の生活上の困りごとの相談
  - ⑤ 感染対策に伴う運営上・事業上の課題

《調査結果のポイント》電話相談の継続やメール、オンラインカフェ等での双方向コミュニケーションの試行など、各団体が柔軟に対応していることがうかがえます。特有の課題としては、自治体バスの運休等に伴う移動支援の必要性や、要支援者が新型コロナウイルスを理解できないことへの負担といったものがあります。



## 介護者支援の活動状況

全団体が「活動を縮小した(中止、時間制限・利用制限など)」と回答。

## 介護者支援の活動縮小の内容

・介護者サロンや介護者の会、認知症カフェを中止している団体が多く、期間は「緊急事態宣言の解除まで」「5月末まで」「無期限」等、理由として「団体で判断」「会場である公共施設が閉館中」「自

治体の要請」等の回答がありました。電話相談を継続しているのは2団体でした。

## 介護者が集う活動を実施する際の感染対策

介護者が集う活動を調査期間中に継続していた2団体と、2月まで行っていた1団体の回答より、  
①消毒液の設置、②会場内の消毒、③マスクの着用、④定期的な換気、⑤スペースの確保・人との距離を

空ける、⑥人数制限(参加者・スタッフ含む)、⑦活動時間の短縮、⑧体調が悪い方は控えて頂く。

## 生活に影響を受けた介護者への新たな取組み

・4割(10団体)の団体が新たな取り組みを行っている」と回答しています。

## 新たな取組みの内容

・双方向のコミュニケーションの試行が多数みられました。具体

## 介護者や周辺地域の生活上の困りごとの相談

・デイサービスやショートステイなどの介護サービスの休止や閉鎖、利用頻度の減少による介護者の介護負担の増加が多く寄せられました。先がみえないことや衛生管理の不安など「心理面の負担の増加」への懸念もありました。

・外出や人と話す機会の減少により、「閉塞感・孤立感・孤独感の増大」もあげられています。

・介護に関して、自治体バスの運休や介護サービスの減少により通院や買物の際の「移動支援の必要性」、感染リスクゆえ病院に行きづらいという不安も寄せられています。

・要介護者が家にいることで家族が仕事を休まざるを得ない、施設に入所している家族に面会できないなど、「要介護者と介護家族いずれにも生活上の影響や不安が生じている」という回答もありました。

## 現在の団体の運営面の課題

「活動再開の時期の判断が難しい」が8割を超え、約5割が「この時期にできる活動が見つからない」「今年度の活動計画を立てられない」と回答。

## 今後、想定される課題

・団体にとつての課題は、「運営費用に影響が及ぶ」「活動再開の目処が立たない」「新規相談者への対応ができない」「安心して集えるか不安がある」「別の形でのつながりづくりをどうするか」等があげられました。  
・介護者にとつての課題として、「介護者の孤立」「交流の場やストレス発散の場の喪失」「虐待・DVの増加」「介護者自身の心身生活のケア」等の課題があげられました。また、介護者が感染したり介護サービスが休止した場合の対応の困難さ・介護力確保の課題もあがっています。

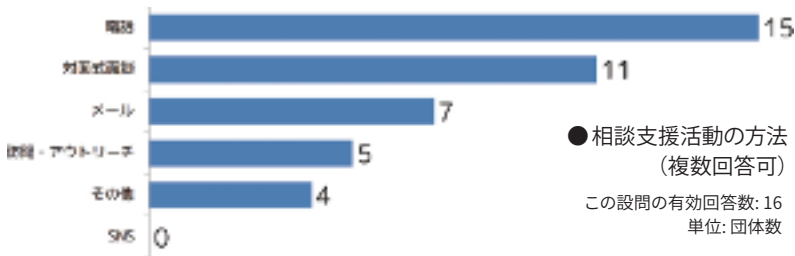
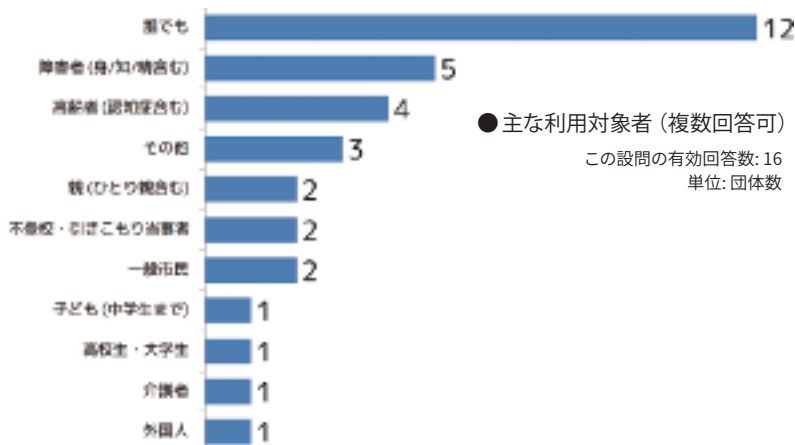
● 新型コロナウイルス対応に関する緊急アンケートから [3]

# 民間相談機関連絡協議会 会員団体

- (1) 期間：2020年4月15日～4月22日
- (2) 対象：東京都内に所在し相談活動を行っている民間相談機関・団体で構成される民間相談機関連絡協議会の会員団体 51団体
- (3) 有効回答数：16団体 (回答率 31.3%)
- (4) 主な質問項目：

- ① 新型コロナウイルスに関する民間相談機関の活動の実施状況
- ② 新型コロナウイルスに関する困りごと相談の内容
- ③ 生活に影響を受けた方々への新たな取組み
- ④ 団体の運営及び事業の課題
- ⑤ 今後想定される利用者や団体運営の課題

《調査結果のポイント》「社会的な互助や共助機能の低下」への懸念を挙げる団体がありました。世の中全体が「自分の身を守る」ことで手一杯になってしまうと、互助や共助が機能しにくくなるのではないかと、いうものです。これは社会全体の非常に重要な課題として受け止める必要があると考えられます。



①相談が受けられないことが辛い、②外部の資源が活用できない、③利用者の危機感が低いという回答。団体の運営管理や事業については、①会議ができず法人運営に支障、②イベント・講習会ができない、③先の見通しが立たない、④スタッフへのケアができない等の回答がありました。

● 今後想定される課題(利用者の状況や団体の運営面など)

「市民・相談者の生活状況の悪化」に関する回答が多く、①孤立感の増大、②健康・精神面の悪化、③困窮者の増加、④DVの発生、⑤買い物困難な人への支援の必要性の増加が課題として挙がりました。

● 団体の運営管理の課題については、①スタッフへのケアがより難しくなる、②経営状況の悪化、③ボランティアのモチベーションの低下という回答がありました。

● 相談支援のあり方については、①通常活動ができず活動内容の見直し求められる、②相談支援がより複雑化・困難になる、という回答でした。

■ 主な利用対象者

7割強の相談機関が利用対象者を「誰でも」としています。続いて約3割が高齢者、障害者と回答。

■ 相談支援活動の方法

9割の団体が電話相談、7割弱が対面式面談、4割がメール、訪問・アウトリーチは約3割でした。「SNS」の使用については回答0でした。

■ 相談支援活動の現状

1団体を除き、全ての団体が「活動を縮小している」と回答しています。

■ 具体的な相談機能の縮小内容

縮小の内容は相談機能を全て中止としている団体のほか、時間短縮や新規受入れ中止、集団プログラムの縮小など一部機能を縮小して電話相談のみ残しているとの回答でした。

■ 新型コロナウイルスに関する生活上の困りごと相談

生活上の困りごとでは、市民や利用者の「不安・閉塞感・孤立」に関するもの、介護・福祉サービスの制限や利用不可に伴う相談、経済的な相談、病院に行けないといったもののほか、病院を退院させられた、消毒による皮膚症状の悪化など多様な相談が寄せられています。

■ 生活に影響を受けた方々への新たな取組み

新たな取組みを行っている団体は1団体のみで、2団体より「検討中」「準備中」という回答がありました。具体的な取組みの内容は、オンラインミーティング、食事提供、電話相談の強化でした。

■ 現在の団体の運営面及び事業面での課題

利用者への対応については、

# 民間助成団体・NPO対象融資金融機関

- (1) 期間：2020年4月14日～4月21日
- (2) 対象：ボランティア・市民活動に助成を行っている財団等民間助成団体および融資金融機関 135 団体
- (3) 有効回答数：46 団体 (34%)
- (4) 主な質問項目：

- ① 助成募集についての変更等の検討状況
  - ② 決定・検討している変更内容
  - ③ 変更を検討するに至った理由
  - ④ 助成事業を継続する上での課題・工夫
  - ⑤ 他の助成団体、助成対象団体の状況について知りたい情報
- ※金融機関については「助成」を「融資」と置き換え、回答を依頼

《調査結果のポイント》助成対象団体の事情（活動が実施できない、対象が広がる可能性がある等）、助成団体側の課題（説明会や報告会が開催できない等）に対し、迅速で柔軟な対応を心がけていたり、政府の支援が届かないところに対する新たな助成を検討している、等の団体の声がありました。

## 新型コロナウイルス感染拡大の影響による、助成募集についての変更等の検討状況

「今のところ検討していない」が65.2%と最も多く、何らかの変更を決定・検討している団体等が3割を超えました。

### 決定・実施している変更内容

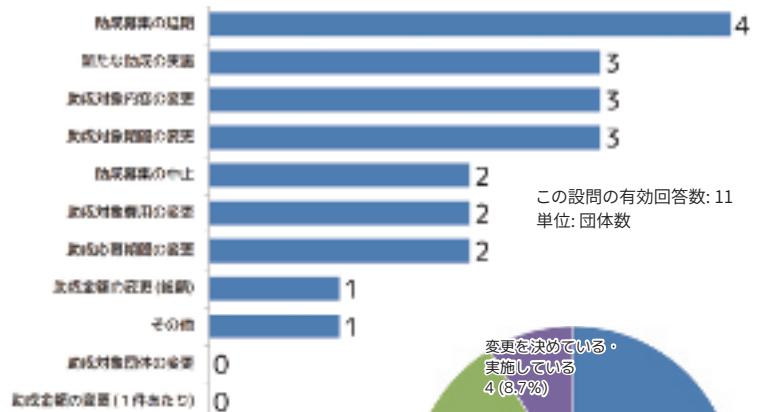
・変更内容が多かったのが「助成募集の延期」(4件)。ついで「新たな助成の実施」、「助成対象内

容の変更」、「助成対象期間の変更」(いずれも3件)でした。

・具体的な変更内容では、助成対象としていた活動等の延期・中止とそれに伴う縮小という視点と、新たな助成の実施や対象・金額の拡大という視点のものが挙げられました。

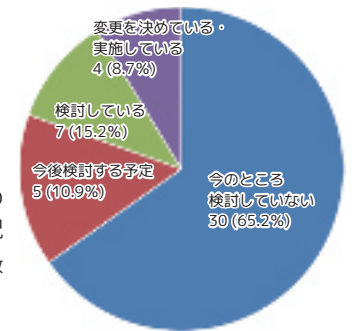
・「新たな助成の実施」では、新型コロナウイルス感染拡大に対応する活動への助成が挙げられました。緊急助成として経済的に困窮している家庭に食材を贈る助成を実施したり、今後、子ども

## ● 現時点で決定・検討されている内容 (複数回答可)



## ● 助成募集についての変更等の検討状況

単位: 団体数



や高齢者世帯、支援団体への新たな助成を検討しているという回答も寄せられました。

・「助成金額の変更」では、総額を拡大し件数の増加を検討中の団体がある一方、寄付を募って助成する団体では助成の規模が縮小される恐れがあるという回答もありました。

### 変更を検討するに至った理由

変更・検討に至った理由は、助成対象団体が活動できない状況やそれに関する相談によるものが多

く、また、現在の社会・市民のおかれている状況への対応の必要性や助成団体への影響に基づくものもありました。

### 助成事業を継続する上での課題・工夫

・主な課題としては、①助成対象団体が活動を実施できないことにより、助成金が活用されないこと、②助成団体の実施する事業が計画通り実施できないこと(経済・社会の情勢により十分な原資が確保できないことを含

む)、③助成のための説明会・審査等を開催できないことが挙げられました。

・課題に対する工夫としては、①助成対象団体の活動や予定の変更等に柔軟に対応する、②現在の状況下でできる活動等を検討している、③動画配信やオンラインでのコミュニケーションを導入するなどの回答がありました。

### 助成団体、助成対象団体の状況について知りたい情報

・助成団体については、①応募数の増減など応募に関する影響、②新型コロナウイルス感染拡大に関する新たな助成プログラムの内容、③通常助成事業で柔軟に対応している事項(対象期間の延長、対象経費の拡大、活動内容の変更、期限の変更など)について知りたいなどの回答がありました。

・助成対象団体については、①今回の状況による助成対象団体への運営上の影響、②新型コロナウイルス感染拡大に関する緊急的な支援を行っている団体、③今回の状況の中で市民ならではの課題解決に取組む活動、④今後想定される資金や助成ニーズについて知りたいなどの回答が寄せられました。

活動を止めることのない日常へ  
 ↳ 調査のまとめにかえて

今回の調査では、居場所の活動154団体、介護者支援の活動24団体、民間相談機関連絡協議会会員団体16団体、民間助成団体・NPO対象融資金融機関46団体に回答をいただきました。調査時の4月中旬は感染拡大期にあたりますが、ほぼ全ての団体が通常の活動を縮小・延期・中止をしていました。外出自粛や「3密」を避けることを求められ、また公共施設など活動拠点の多くが閉鎖される中、活動の必要性と感染リスクの狭間で葛藤しながら各団体が決断した結果でした。一部の活動テーマに限らず、ボランティア・市民活動自体が一様に厳しい局面に立たされていたと言えるでしょう。

しかし、そうした状況下でも、活動は完全に立ち止まることはありませんでした。すでに市民生活にさまざまな問題が生じていることに懸念を強め、知恵を絞り、目前の課題に最善を尽くす取り組みが多数、報告されました。今、出

来る活動があることを私たちに示しているのです。

当たり前のように享受していた日常が急変し、これまでは見えづらかった深刻な社会課題が露わになったと耳にします。

そしてまた、再び感染の危機が訪れることも予想される中、この数か月の非常事態の中で得た経験を広く共有し、社会が連帯して臨むことによつて、かつてない危機を乗り越えられると強く感じます。

\* \* \*

以下、アンケートに寄せられた中から、4事例をご紹介します。

事例集

# 新型コロナウイルスの中でのボランティア・市民活動 参考事例集

## いま、できる活動って？

新型コロナウイルスの感染防止をしながらでも、さまざまな工夫・アイデアを凝らして活動を続けている団体がたくさんあります。

新型コロナウイルスの感染防止をしながらでも、さまざまな工夫・アイデアを凝らして活動を続けている団体がたくさんあります。  
<https://www.tvac.or.jp/corona/jireisyu/>  
 その一部を本誌にてご紹介します。

東京ボランティア・市民活動センターではアンケート調査などをもとに、都内のボランティア・NPO団体にヒアリングをして、参考になる事例を集め、ホームページでご紹介しています。

休業を余儀なくされた事業者と外出しづらい人を結ぶ地域密着型配達サービス  
 チリンチリン三鷹  
 新鮮食品、炭水化物、お惣菜、



おやつ…チリンチリン三鷹の注文サイトには、豊富な種類の食材が並んでいます。これなら買い物に行かずしてバランスの良い豊かな食生活ができて、出先で買うのと値段も変わらず、しかも配達料はたったの500円!

チリンチリン三鷹は、濱絵里子さん(一般社団として代表)と刈谷恵さん(三鷹市にて叔父の喫茶店手伝い)などを中心としたメンバーの発案でスタート。もともと地域のつながりを考えて地域通貨構想を実現する直前だった二人は、地域の事業者の窮状を目の当たりにして地元支援へと舵を切りました。知りうる限りの人に声をかけ10事業者の参加で始まり、サービス開始後は事業者からの問い合わせが増え、現在16事業者が参加しているそうです。

ネット注文が難しい高齢者への配慮として、電話注文も受け付けることにしました。おか

げで注文件数は5月20日現在で240件を超え、配達員を増員し、配達地域も三鷹市全域にしたそうです。商品を三鷹市の人が購入することで、地域の美味しい循環が生まれています。

つくる人、発信する人、運ぶ人、食べる人：関わる人すべてが得をする「全方一両得」のシステムが誕生した！と思えました。

(5月20日取材)

### Zoomに挑戦・ブログで情報発信

#### キラリっ子ファミリーカフェ

キラリっ子ファミリーカフェは、



発達に不安がある子どもを育てる保護者同士が支えあい、励ましあえる場として、2017年に生まれました。活動の基盤としてはおしゃべり会は、はじめての保護者も気軽に参加できるように、会員制を設けていません。おしゃべり会に参加し、LINE登録した方向けて、日常的に悩み相談や情報交換をできるグループLINEの場作りをしています。この保護者の多くがかなりストレスを溜めている状況が続いており、2つの新たな方法に踏み出しました。

①Zoomで保護者同士のおしゃべり会、親子あそびの会、発達支援専門家との座談会を開催

＝＝＝＝＝＝＝＝

グループLINEのメンバーを対象に開催。1～2時間で実施。事前に、操作確認の体験会を数回実施。

立川市子ども未来センターの団体支援を活用(勉強会への参加、Zoom使用に関する相談)。

＝＝＝＝＝＝＝＝

保護者同士のおしゃべり会を開催したところ、となりで見ている休校中の子どもたちが興味をもったことがきっかけとなり、「親子で遊ぼう!の会」(しりとりやクイズ、歌遊びなどを実施)をひらくに至りました。

グループLINEメンバーのうち、Zoomへの参加者は半数程

度。対面でのおしゃべり会に参加したことのある保護者に対象を限っているものの、オンラインの場自体へためらいがある方もいます。また、新しいことにチャレンジする余裕や気力が無い方もいて、そういう方ほどストレスや悩みが重い可能性があり、支援の手立てが課題になっています。

一方、この状況下でなくてもオンラインのニーズがある、という新たな気づきがありました。平日日中は仕事がある方や、子どもが小さくて足を運ぶことが難しくかつた方も参加できる、少し場を外して家や子どものことをしながら気軽に参加できる、自宅にいなから参加できること。こうした気づきも課題も『やってみてよかった!』と思えるポイントとなっています。

#### ②ブログでの情報提供

オープンのおしゃべり会やイベント、講座を中止しているため、不特定多数の保護者に見てもらえるブログで情報発信をすることにしました。グループLINEでは保護者からあがった悩みや知りたい情報など、生の声からビックアップし、オススメの本や絵本、勉強法・学習サイトやアプリ、動画などの紹介をしています。

これまでの活動に、新たな手法や新しいアイデアを取り入れ、ハイブリッドの活動を生み出し、この難局を積極的に乗り越えよう

とされています。

(5月15日取材)

### DVDの制作・配布 #高齢者施設とオンラインの壁

#### NPO法人プラチナ美容塾

シニア自身が美容を「学び」「学んだ知識と技術を高年齢施設や障がい者施設でのボランティア活動に「活かす」、地域でのイベント活動などに参加し美容を通じて地域社会と「つながる」。プラチナ美容塾は、この3つのサイクルを通して、プラチナ世代が素敵に輝くよう推進活動をしている団体です。

従来の活動をすべて自粛することになった中、定期訪問していたおよそ15か所の施設には、疲弊した職員と外部との交流が断たれてうつ気味の利用者、というひっ迫した状況がみられました。「何もしないで待つだけでは辛い」と、こみ上げてくる想いをバネに奔走する日々。高齢者施設においてZoomやYouTubeなどの活用は、



ハード面でもソフト面でも壁が高く、短期間で突破するには難しいことでした。リモートの環境でボランティア活動を模索した結果、各施設にある設備(DVD再生機)を使用でき、繰り返し鑑賞してもらえ、施設内イベントがなくなり集う機会を失っている利用者から分転換の場を提供できることから、DVD制作へ踏み切ったそうです。

5月初旬に童謡を収録したDVD40枚が完成。しかし配布寸前に、著作権の問題が浮上し、急遽、再制作することに。連携チームワークで誕生した2作目は、題して『歌って覚えよう!プラチナハンドケア』。感染予防の手洗いで荒れてしまった手のトリートメントと指マッサージ、さらにストレス解消効果のあるハンドケアの方法を、歌と映像で伝えています。手の動きの映像にあわせて、ハンドケア方法の歌詞をオクラホマミキサーのメロディに乗せて親子に





シニアのための電話相談

# シニアダイヤル

## 03-3293-0351

お話ししたい時、気持ちが弱った時、誰かに話してみませんか。お電話ください。

◎電話相談受付日◎ 午後1時～午後5時

月	火	水	木	金	土	日
○	○	○	○	○	○	×

★おひとり1日2回までお受けします。  
★お休み：日曜・祝日ほか  
お話ししたい時間帯は、ホームページの電話相談受付時間のご案内をご覧ください。

シニアダイヤルは4060シニア電話相談 とは  
及びシニアリングの専門家のサポートを受けている東京YWCAの提携です。両方の機能を  
併用することで、お電話がより充実します。

公益財団法人東京YWCA  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL: 03-3293-0351  
FAX: 03-3293-5570  
http://www.tokyo.ywca.or.jp/senior/consultation/

歌ってもらい、3分程度にまとめました。完成したDVDは、各施設へ理事長・副理事が車で廻って配るそうです。

「ニューノーマルを迎え、リモートボランティア活動を視野に……。緊急事態だけでなく、いつでも対面に代わる社会的支援の必要な人の個別の見守り体制を構築したい」「離れていても、1人でいても、欲しいときにつながりあえることを模索したい」と理事長の伊藤さん。高齢者施設のIT化も、引き続き課題の一つとして取り組んでいきます。

「今できること」「今しなければならぬこと」を、高齢者施設の現場から情報収集し、連携し、短期間で実現させ、また、今回の事態を今だけの課題とせず、中長期

的に取り組むべきこととして据えていること。プラチナ美容塾の飽くなき挑戦から今後も目が離せません。(5月25日取材)

### 相談員メンバー全員の気持ちやアイデアをメールでやりとり 東京YWCAシニアダイヤル

誰かと話したい時、寂しい時、悲しい時、困った時など、シニア(中高年)のための電話相談活動を行ってきた、東京YWCAシニアダイヤル。月曜から土曜まで毎日午後、カウンセリングの専門家による研修を受けたボランティア相談員が身近な相談相手として電話を受けてきました。

2月終わり頃から相談員メンバーの参加に影響が出てきました。

相談活動を行う場所が窓のない部屋だったり、活動場所へ通うまでの交通機関利用に不安が高まってきたため、3月28日からは休室せざるを得なくなりました。

以前からメンバー全員で意見を出し合う時間を大切にしてきたため、休室を決める際には、「現在の各自の状況と今後の活動について活動休止することについて」どのように考えているか、全員にメールしました。メンバーの中の10名ほどの運営委員が、メールの反応をまとめてまた全員にメールで返していきます。みんなに活動を続けたい気持ちがありながら「意に沿わない決断となったのは残念ですが」として、寄せられた意見を紹介しながら休室のメールをメンバーに送りました。

休室中もお互いの気持ちを出し合えるよう、メールで現在の過ごし方や今をしのぐ工夫についてメッセージの交換を行いました。「こんなことにハマっています」「マスクはこう(二重に)付けるといいですよ」「イライラすることもあけれど気分転換しています」など、さまざまな声が寄せられました。全員でのやりとりや意思決定を大切にしていることを通して、メンバー同士もひとりぼっちでないことを感じ合い、また、活動できないストレスをやわらげ再開に向けての気持ちの維持につなげていることを感じました。

運営委員はこの間Zoomでのミーティングもしながら、メールの発信とまとめの返信を繰り返しメンバーとやりとりしています。(5月19日取材)

### チリンチリン三鷹

フレッシュ便 <https://chirinx2mitakafresh.company.site/>  
TEL : 050-3708-2749 Email : chirinx2mitaka.fresh@gmail.com

弁当便 <https://chirinx2mitakabento.company.site/>  
TEL : 050-3708-2749 Email : chirinx2mitaka.bento@gmail.com

[https://twitter.com/cc\\_mitaka](https://twitter.com/cc_mitaka) <https://www.facebook.com/cc.mitaka/>

### キラリっ子ファミリーカフェ

<https://ameblo.jp/tachikawa-kiriricafe/>

### NPO法人プラチナ美容塾

『歌って覚えよう! プラチナハンドケア』 <https://youtu.be/hHI2AHiHYVY>

<https://platinabeauty.com/>

<https://www.facebook.com/platinumbeautyschool/>

TEL : 070-2187-8066 (10:00 ~ 18:00)

### 東京YWCAシニアダイヤル

<https://www.tokyo.ywca.or.jp/senior/consultation/>

TEL : 03-3293-5421 FAX : 03-3293-5570

# コロナ禍におけるシユール大学の取り組み

シユール大学 学生 長畑 洋



(右上) 演劇の企画を考える。シユール大学では、脚本、演出、広報、音響、舞台・客席設置等、すべて学生が行う。  
 (右下) 研究ゼミの様子。  
 (左上) 研究イベントにて、マイクをもっているのが長畑さん。(左下) 舞台衣装のデザインを考える。

## シユール大学での 新型コロナウイルス感染防止 対策と活動の実施状況

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、NPO法人東京シユール・シユール大学でも、いくつかの感染防止策を行っています。

まず、新型コロナウイルスの感染が日本でも確認され始めた頃には、学生たちが通う場は開きながら、手洗い、手指の消毒を基本の対策としました。シユール大学の入り口と最も多くの学生たちが集まる講座室の2か所に消毒スプレーを常備し、手洗い・消毒の周知と日常的な換気の確保をしました。

緊急事態宣言が発表される少し前には、学生たちの学び・活動のペースを、実際に顔を合わせる場所から、オンライン空間へと移しました。学生や大学のスタッフたちが「三密」の環境や濃厚接触を避けられるようにするためです。それらの対策が奏功したのか、シユール大学では、学生・スタッフはもちろん、その家族

も含めて、新型コロナウイルスに感染した方はいません。

そのような感染対策をとりながらも、現在は可能な限り、場を開いていた時と変わらない学び・活動を続ける試みをしています。4月に入り、新学期が始まってから、毎日の講座や学生たちによるさまざまなプロジェクト活動のミーティング、学生とスタッフとの個人相談などは、オンラインビデオ会議サービス「Zoom」を通して行っています。ビデオ通話の画面をみながらディスカッションをしたり、講座の資料をオンライン上で共有しながら学生が発表したり、これまでとは違うやり方にまだまだ手探りの状態ではありますが、学生たちは手ごたえを感じながら、オンラインでの学び・活動を活発にしています。

## 自粛対応に伴い生活に影響を受けた学生に対する 新たな取組の実施

緊急事態宣言以降の全国的な自





演劇での演技中のひとコマ。

粛対応によって、学生たちの中にも減収する家庭が多くあります。そうした家庭に対して、目下二つの対策がすすめられています。

一つは、本人または家族の減収期間中の学費減免措置です。これは、シユール大学だけでなく、不登校を経験した子どもたちが通うフリースクールの部門も含めたNPO法人東

京シユール全体で行っている対策です。減免はオンラインから申請することが可能で、家庭の減収の程度に応じて、減免の額を自身で希望して申請できる形をとっています。

もう一つは、相談窓口の設置です。現在、困窮している個人事業主などを対象とした支援の窓口が民間や行政で設置されています。しかし、現状の事業者に対する様々な支援策は、内容が分かりにくく、支援申請手続きが煩雑なものになっているようです。そのことによって支援申請自体を諦めてしまうことがないように、東京シユールの会員の親御さんなどに対象は限定されませんが、専門的知識をもった担当者が支援申請についての相談に無料で対応する特別窓口が置かれています。

また、長引く自粛生活の中で、見通せない先行きや減収による生計の逼迫、人とコミュニケーションを取り合う機会の激減などによって、不安や精神的負担を抱える学生もいます。そうした状況に対応するため、オンライン上でのスタッフとの個別相談がいつでもできるように開かれています。オンラインがやりやすい学生に対しても、事情に合わせて、感染防止対策をとった上で個別での対面の相談が行われています。

### 感染対策に伴う 運営上・事業上の課題

感染対策として、活動の場がオンライン空間に移行したことで、感染防止には一定の効果を発揮している一方、そこには問題・課題もあります。

多くの学生たちから、オンラインでの講座やコミュニケーションは、対面でのそれと比べて集中力を使い、疲れやすいという声が聞かれます。ある学生などはオンライン講座が終わった後は熱が出ているようにも感じると言っていたほどです。

さらに、オンライン空間でしか他の学生とコミュニケーションをとれないことに対して、「つらさ」や「しんどさ」を訴える声もあります。シユール大学に通う学生たちは、性的マイノリティであったり、外国籍であったり、不登校・ひきこもりを経験していたりと、社会の中で何らかのマイノリティ性を感じている人も少なくありません。そのような場合には、自分のいる場や社会に対して安心感を得られるかどうかが大変になります。普段であれば、シユール大学に行って他の学生と話したり、空気感を感じたりして、お互いを知り合い、安心感を少しずつ育て

ていくことができます。しかし、現在のオンライン上でのやり取りだけでは、そうした安心感を十分に得ることはできないのです。

感染防止策のために学び・活動・コミュニケーションの場が限られてしまうことで発生しているこうした負担や「つらさ」を、いかに学生たちとスタッフで協力して緩和していくかが、今後のシユール大学の課題です。

### シユール大学

<https://shureuniv.org/> univ@shure.or.jp

不登校を経験した子どもたちの居場所・学び場であるフリースクール「NPO 法人東京シユール」を母体として生まれ、様々な分野の講座やプロジェクトによる「知る」「表現する」学びを通して、自分にあった、「自分の生き方を創る」ことを模索しています。18歳以上であれば誰でも入学が可能で、これまでも不登校・ひきこもりを経験した若者たちだけでなく、様々なマイノリティ性をもった人たちが一般的な会社を経験後、より自分にあった生き方を探したいと思った人など、多様な人たちが通っています。

# あすまね

明日からすぐにマネ(真似・マネジメント)できる!

このコーナーは、TVACに寄せられた相談をもとに、市民活動やNPOの運営にまつわるヒントを紹介しています。

\* 本日のご相談 \*

## オンラインの活動って、どんな感じ? ～セルフヘルプグループ(SHGG)の場合～

当センターには、さまざまな団体から相談が寄せられています。新型コロナウイルスの影響は、当事者主体の活動をしているSHGGにも大きく及んでいます。SHGGは、当事者同士が出会い・つながることを大事にしており、直接会う活動を主にしている団体も多く、これまで通りの活動が全くできなくなってしまったグループも少なくありません。さらに、難病等で感染リスクの高いメンバーがいるSHGGは、他のNPOよりも早い時期から影響を受けていました。運営メンバーと参加者の「安心安全」をどのように守っていくか、活動の再開に向けた判断は容易ではないと思われる。

一方で、SHGGの活動は、たくさん「当事者」「市民」ととって、なくてはならない存在です。月に数回のSHGGの集まりで仲間に出えることで日々を過ごしている方もたくさんいます。その大切な場が休止となり、再開の見通しも立たない…。「仲間が昼間からアルコールを飲むようになってしまった」「ゲームに依存してしまって家から出ていない」という声も耳にするようになりました。そのような中、多くのSHGGが、今できることや新たな活動の仕方を模索しています。

### ● SHGGに対する 新型コロナウイルスの影響

一部のSHGGは、他の市民活動団体より早い時期から新型コロナウイルスの影響を受け始めていました。最初に相談が寄せられたのは2月のことです。それから徐々に、活動を休止する団体が増える一方、当事者が集まる場、いわゆるミーティングなどは3月まで、対策をとりながらなんとか開催したという団体もありました。「この活動が支えという人たちがいる」という切実な理由からでした。3月になると早くから活動休止をしていたSHGGから「疲れた」という声が寄せられるようになります。緊急事態宣言が出された4月には、活動再開の見通しが立たないことへの不安や、グループの存続に関する相談が増え、同時にオンラインの活用を模索する団体も増えてきました。

### ● SHGGにおける オンラインの活用

SHGGにおいては、①運営メンバー等の会議、②学習会やセミナー、③情報発信、④交流会・懇親会、⑤相談事業、⑥当事者ミーティング、の6つの場面において、オンラインツールの活用がみられます。

#### ① 運営メンバー等の会議

まずは「運営メンバーの会議」から導入するグループが多いようです。使用するツールは様々で、LINEのビデオ通話など普段使っているアプリを活用することもできます。会議や打ち合わせなど、運営面での導入を通して活動への活用を検討することもあります。活用した団体からは「思い立った時すぐに会議ができて便利」「(疾病等が)重い状態のメンバーも家から参加できる」という声もありますが、「画面越しだと雰囲気かわからない」「話し出すタイミングがわからない」「顔は見えていくけど、なぜか孤独を感じる」などの声も挙がっています。特徴的な取り組みとして、スタッフの個人的なできごとや雑談だけをする回を設けている団体もあります。SHGGはピア(お互いが対等な仲間)であることが基盤ですので、会わなくなることで減ってしまったメンバー間のコミュニケーションを意図的に補おうという試みです。

#### ② 学習会やセミナー

「学習会やセミナー」への活用は、比較的しやすいようです。講師・事務局・参加者全員が自宅などから参

## 【SHG に対する新型コロナウイルスの影響】

- ・何もできなくなりました。
- ・活動の中心であるミーティングが3密のため開催できない。
- ・数人だけでも…と思ったが、普段借りている会場が閉館になった。
- ・会の収入がなくなりました。
- ・イベントを中止したが、チラシ印刷費はすでに支払い済み。会にお金はなく、赤字（個人の持ち出し）のまま。
- ・コロナに対する感覚がみんな違って、今後を話しあうのが難しい。
- ・これまで通りのコミュニケーションができなくなったことで、運営メンバー間にも距離が生まれてしまった。
- ・先の計画を立てられない、予定を考えられる状況にない。
- ・グループにつながったばかりの方と、交流が途絶えてしまった。
- ・参加者には「居場所」だったこの活動が断絶してしまった。
- ・法人格もなく、規模も小さく、寄付頼みだったので、公的な支援策の対象にならない。
- ・活動をしなければ支出はないので、運営面のダメージはない。
- ・コロナの影響による家族間の軋轢に関わる相談が寄せられるようになった。
- ・性暴力などの危険度は増しているが、ロビイングができない。
- ・当事者運動体としては暇になった。

## 【心配していること】

- ・参加できる活動がなくなり、会員離れが進む。
- ・活動を再開しても、感染への不安で参加できない人がいるかも。
- ・感染リスクが高いメンバーが多く、再開の判断ができない。
- ・実際に会うことを大切にしているため、この先どのように活動していけばいいのか…。
- ・活動休止により、相談・励まし合いの機会がないことで、深刻さが増していく人がいるのではと心配。
- ・この状態が長引くと、精神的に調子を崩してしまう人が増えてしまうのではないかと危惧している。
- ・「閉じこもり」状態の人が多いので今はなんとか過ごせている。しかし、このまま状況が長引けば、個々の生活に新たな問題が発生しそう。

加している場合もあり、世界中どこからでも画面を通して講義を聞く・見ることができず。参加者とのやり取りを減らし、質問はチャット機能で受けるなどほぼ一方通行の発信に絞ることで、慣れていない事務局でも少ない負担で実施できます。オンラインのセミナーを開催したことにより、遠方からの参加も可能になり「参加者が増えた」と感じている団体が多いようです。

一方で「案内メールが先方の携帯にうまく送れない」「使い方を説明するのに時間がかかった」「セミナー受講後のつながりには結びつかなかった」など、手間が増えたり、これまでの講座に期待する効果が得られなかったりすることもあるようです。時々「オンラインセミナーだと、参加費の受け取りが難しい」という声を耳にしますが、最近では、法人格のない任意団体でも数百円からの支払いに利用できるオンライン決済があり、実際に利用しているSHGもあります。

実際の開催では、資料の取り扱いと質問の受け方、カメラについて悩むことが多いようです。資料は、事前に紙で配布しにくいですが、当日、画面で資料が見られるようにするだけでなく、著作権などについても留意が必要です。

## ③ 情報発信

情報発信を積極的にはじめたSHGもあります。YouTubeで自身の体験や仲間との対談を発信したり、SNSにメンバーが「つぶやき」を書いたりという取り組みです。コロナ禍で生活が大きく変わって、苦しい思いやしんどさが増している人たちに「一人じゃないよ」を届ける活動でもあります。

## ④ 交流会・懇親会

交流会・懇親会については、オンラインでやるのが難しい…という声が多くありました。いくつかの団体は、匿名参加ができるオープンチャットを活用したり、Zoomの機能をつかって小グループに分かれた交流会を実施しています。オンラインの弱点は「大人数では話せない」「あなたと話したい」が難しい」という点にあります。メリットは、リアルな交流会では座った席の「近くの人としか話せなかった」ということがありますが、オンラインではお互いの距離は一定のため、誰とでも話す機会があるという点です。

## 【当事者ミーティングの現状】

- ・ミーティングは休んでいるが、これができないとなると、会の存在意義があるのか…。
- ・参加人数が多くリアルな場で「密」にならないように開催するのは大変。定員を減らして回数を増やすのは事務局の負担が大きく、オンラインに切り替えた。
- ・参加の垣根を下げるために、事前申込不要でやってきた。毎回参加者が違うし、人数もわからないため、オンライン開催はできない。

## 【オンライン化についての心配】

- ・オンラインミーティングを体感した人は、再開後リアルな場に足を運んでくれるだろうか。
- ・オンライン開催のために申込制にしたら「匿名性」を担保しにくいのではと懸念。
- ・信頼関係がないと成り立たない場なので、オンライン開催でどこまで可能か…。
- ・その場にいる人の話を聞いてから「話す・話さないを決めていい」というあいまいな参加を大切にしてきたので、オンラインで「順番に話す」スタイルはそぐわない。
- ・団体の性質上、当事者でない人が入ってこれないようにしたい。
- ・画面の向こう側の様子がわからないことが不安（誰が聞いているか）。
- ・リアルな場と違って、オンラインミーティングは、外から部屋の中の様子を伺ったり、のぞき見することができず、ハードルが高い。

## 【安心して話せる場をつくる工夫】

- ・いつもより規模を縮小して数名でオンライン開催している。希望者は多いが、団体としてちゃんと運営できる規模で開催。
- ・普段のグラウンドルールに加え、オンライン用のルールを追加した。
- ・音声や画面の録音はしないことをルールにしている。その場だけで流れて消えていく話だからこそ、気楽に話せる。
- ・事前申し込みをしてくれた人に招待メールを送っている。
- ・待機室機能を使い、そこで事務局とチャットしてから入室してもらっている。
- ・初めての方は、まず10分お試し参加などができるようにしている。
- ・スタッフが誰でも進行できるように、オンライン用台本を作っている。
- ・聞いていることが伝わるようにならずくなど、反応に気を付けている。
- ・リアルな場では、人の話を聞いているときに「うん、わかる」とか「そうなんだよねー」というつぶやきができたり、聞けたりすることがとても大事だった。オンラインでは、チャット機能を使って、いつでもなんでもつぶやけるようにしている。
- ・主催メンバーは、参加者の様子全体が見えるようにギャラリービューにして、参加者一覧、チャットとともに注意を払う。結構、気を遣う。

## 【オンラインミーティングのトラブルと対応】

- ・ハウリング対策だけでなく、生活音やカフェなど周りの音が大きい人への対応として、ホストがミュートを管理する。
- ・イヤフォンとPCの相性によっては、話していてもマイクが音を拾わないことがある。または、初めてでなくてもうまく参加ができないことがある。いろんなトラブルを想定して、開始時間より前から待機している。
- ・事前に練習会を開催する。

## 【やってみて気づいたこと】

- ・参加費を受け取れなくなったが、むしろ無料だから気軽にできると感じている。
- ・オンラインの方がよく発言してくれる人がある。
- ・オンラインで集まっても、結局コロナの話をして終わったりしているが、同じ仲間と話せる場があること自体が求められていると感じている。

## ⑤ 相談事業

S H G の中にはミーティングの休止に伴い、期間限定で相談を受けているところがあります。相談の方法としては、電話やLINE、Zoomが多いようです。メールは「すぐに返信がきて、やり取りが増えて大変になってしまふ」という声がありました。それに対して、オンラインの相談は、時間を限定して対応する

ことができます。一方で、家の中からは相談できない利用者も少なくないため、「相手が押し入れの中から相談してきた」「車の中からスマホで連絡してきた」という状況もあります。オンラインミーティングへの参加に不安がある方や、切羽詰まった状況に置かれている方にとっては、S H G が相談を受けてくれることは大きな救いとなっています。切

迫した相談が寄せられることになる S H G にとっては、適切なつながり先の情報が重要になります。

## ⑥ 当事者ミーティング

当事者の集まり（ミーティング）は、多くの S H G にとって中心的な活動ですが、安心して話せるよう閉じられた空間で開催されることが多く、再開のめどが立たない団体がほ

とんどです。最も再開が望まれる活動でありながら、オンライン化について最も慎重に検討されている活動です。まずは、当事者ミーティングを取り巻く現状について、ご紹介します（囲み記事②）。

## ● 顔をだすか、出さないか

当事者ミーティングのオンライン

### 【顔を出すことを必須としている】

- ・初めての参加者には、事前に運営メンバーが面談をしている。顔を出したくない場合は、マスクまではOKとしている。
- ・運営メンバーの安心安全を守るためにも、全員が顔を出して参加してもらう必要があると考えている。
- ・あくまでもみんなが集まる代わりのオンラインだから。

### 【顔を出さなくても参加できる】

- ・基本的には本人の判断にゆだねている。家庭の都合もあるため。
- ・参加のハードルを下げるために、顔は出さなくても参加できるようにしている。
- ・主催メンバーも顔を出していない。自己紹介は必須にしている。
- ・顔も音声もNGで、チャットだけなら参加できるという人がいたため。
- ・参加者にも事情があると思うので。

化を検討する際、しばしば「難しい問題」として挙がるのが「顔を出しての参加を必須とするか」「顔を出さなくても参加できるようにするか」ということです。これは、主催者の判断として事前にルールを決めておいた方がいいのですが、団体内でもいろいろな考えがあつて一つに合意するのは簡単ではないかもしれません。参考までに、いくつかの団体の例や考え方を紹介します（囲み記事③）。

## ●オンライン活用の課題

### ■誰にとっても便利…ではない

オンライン活用の大きなメリットは、遠方からの参加が可能なこと、自宅から出るのが難しい状況の人も参加できること、交通費と時間の削減ができることです。

一方で、インターネット環境がなかったり、スマホなどを持っていない人たちもいます。また、「家族に聞かれたくない」「当事者」であることを知られたくない」「自宅のパソコンは家族と共有」という人も少なくないため、誰にとっても参加しやすいたとは言い難いのが現状です。音声でのやり取りが主になることもあり、団体からも「多様な人への配慮が保障できない中で開催するのは、望ましくない」「スマホがない人たちが、つながり自体から抜け落ちてしまわないか危惧している」などの声を耳にします。同時に「スマホはあるけど、絶対にオンライン会議はしたくない」という人もいます。

### ■ファシリテーションが大事

オンラインでの活動では、ファシリテーターの役割が重要とされています。参加者の様子を見ながら進言をしたり、話している人に「聞いて

いるよ」と反応したり、チャットを確認したりと、広くアンテナを張る必要があります。「誰でもできるわけではない」「人により、場にばらつきが出てしまう」など、苦勞している団体が多いようです。また難病等の当事者団体からは、「疲勞が激しい」「1時間が限界」という声も聞かれます。

## ●これからの当事者活動

現在、多くの団体で導入・検討が進んでいるオンラインによる活動ですが、当事者団体・SHGには、オンラインに代えられない活動や価値も、たくさんあります。オンラインでは参加しにくい仲間もいます。この先、リアルな集まりを再開するグループもあれば（会場から新たに参加者の連絡先を把握することなどを求められる場合もある）、これを機にオンラインに切り替えるグループ、両立させるグループもあります。会場予約や準備など、リアルな集まりに負担を感じていたグループからはオンラインは負担が少なくてという声もあり、オンライン導入が活動継続につながることもあるようです。オンラインを活用し、多様な当事者団体が連携してテーマや分野を

越えたつながりをつくらうという試みも始まっています。今後ますます当事者活動の多様化がすすんでいきそうですが、それが結果的にSHGを選択しやすい環境につながっていくことを願っています。最後に、今後に向けてのSHGの言葉を紹介します。

・活動が全部オンラインで代替できるということにはならない。人と人の関わりや癒しの感覚、そういうものを失わないようにしていきたい。

・今できることは、自分たちが元気であること。「いつか再開する」という決意。

（相談担当 森玲子）



<https://www.tvac.or.jp/special/covid-qa/>  
SHGにおけるオンラインの活用法などは、こちらからご覧いただくことができます。

2020年度ボランティア・市民活動総合基金  
「ゆめ応援ファンド」助成決定

2020年度新規助成分 10団体 (順不同、「継続助成」の記載がない場合は単年度での決定)	
カラフル@はーと	LGBT当事者向け性の健康(セクシュアルヘルス全般)に関する連続学習会
まちのおやこテーブル	子育て家庭が知っておきたい子どもの発達段階の活かし方「家事は最高の親子の時間」ブックレット作成に向けた講座開催と作成
東京有閑倶楽部(継続助成)	妊婦さんも対象の育児交流サロン「心&おうちを整える～家族が笑顔になるために～」
NPO法人ばお	初めて障がい児・者に接する人向けのガイドブック制作・発行
多言語絵本の会RAINBOW(継続助成)	都内の図書館に多言語電子絵本のDVDを贈る
オフィスウィンド	モラハラからの避難支援プロジェクト～効率よく安全に避難するための戦略会議～
助け合おう避難所の会	災害発生時開設される避難所でのスペシャルニーズを知り、支援の輪を広げよう
ダイバーシティサッカー協会	ダイバーシティカップ2020 in 東京の開催
医療ケア児だって花火が見たい!実行委員会	医療ケア児だって花火が見たい!プロジェクト
カタルーベの会(継続助成)	ひきこもり等生きづらさを抱える方を支えるしくみづくり
2018年度からの継続助成分 2団体	
特定非営利活動法人里親子支援のアン基金プロジェクト	里親・養親と子どもが地域で支え合うためのしくみづくりプロジェクト
心育稲城	発達障害児(未診断含む)をもつ親への支援事業
2019年度からの継続助成分 2団体	
かつしか子ども食堂・居場所づくりネットワーク	子ども食堂・子どもの居場所ネットワークを通じた共生社会づくり
glolab	外国ルーツの若者が自らキャリアを考えるためのコミュニティづくりプロジェクト

ゆめ応援ファンド助成については、10団体(うち5団体は当事者活動)への助成を決定、加えて2018年度と2019年度からの助成決定団体のうち各2団体への継続助成を含め、合計で14団体に助成が決定しました。

本年度も引き続き、当事者グループ・セルフヘルプグループなど、同じ経験や体験のある人同士の会の活動やつどいの実施等を助成対象の重点にしました。あわせ

て、開発的(新しい)・発展的(広がる・深まる)内容や効果が期待できると評価された申請も重視しました。

内容としては、障害・難病当事者およびその家族や支援者、外国にルーツのある子どもへの支援、子どもや子育て中の親を地域の中で支える仕組み・居場所づくり、多様な性のあり方に関する社会の課題、虐待・暴力被害者支援、その他さまざまな課題がありました。

そのなかで、緊迫している課題だけではなく、認知度の低い課題、複合する要素が組み合わさることにより生じる課題、今後増加が見込まれる課題に対して、評価を高くしました。あわせて、小さな団体において新しい仲間とつながりながら財源を得る努力をしている団体を支援したいという思いから、

新刊のご案内  
『ボランティア・市民活動助成ガイドブック  
2020—2021』

最新情報を含め、ボランティア・市民活動を支援する89の助成団体情報・14の表彰事業・6の融資

2020年6月下旬発売予定です!ご予約を承ります。書店のご注文も可能です。



発行/東京ボランティア・市民活動センター  
共同発行/東京都社会福祉協議会民間助成団体部会  
定価:本体800円(税別) ISBN: 978-4-909393-28-9

高い評価にしました。

2020年度ボランティア・市民活動支援総合基金「ゆめ応援ファンド」の助成決定および助成先14団体の詳細については、<https://www.tvac.or.jp/new/s/50460>をご覧ください。ごめ



『生まれてきたことが苦しいあなたに』  
大谷崇・著／星海社

## 好きなこと、年をとること

十歳になるかならないかの頃だった。まだ目黒区八雲にあった都立大学のキャンパスに、近所の悪友キたちと遊びに行ったことがある。休日だったか、グラウンドには人影もなく、炎天下、転がっていたボールでサッカーをした。みなで体育館の裏に忍び込んで立ち小便をした。終わって出てくると、先に終えた仲間たちが物陰からこつちをうかがっている。そついつこつかが。私は自分でも判断が早すぎると思ったが、さつさと校門を出た。

夕暮れ時のさみしさも降りてきて、私は泣き顔になりながら三軒先の家まで走って帰った。母は愚子の顔を見て、どうしたの? と聞いた。事情を知ると、どうして行っちゃうの? ぼくも連れてって! っていいなさい、と言った。毎日のように遊んでいる仲間になぜあらためて、連れて行ってくれと頼まねばならないのか? 私は内心反発しながら情けなさを黙っていた。

このような仲間はずれは初めてではなかった。変に誇り高い年少の私をからかうのが面白かったのだ。そつとわかつていて毎度同じ対応をとってしまう。いまの時代なら、自己肯定感が低い子供といわれただろう。都立大学という名

称が、この四月から大学名として復活したという話を聞いて、そんなことを思い出した。

『独りであることが、こよなく楽しいので、ちょっとした会合の約束も、私には磔刑にひとしい。』とシオランが書いている。新型コロナ対策で家で過ごす時間が長くなつたが、私も一人であることが苦にならない方だ。読む本もあらかじめ入手しておいた。『生まれてきたことが苦しいあなたに』(大谷崇)。厭世思想家シオランを紹介した本で、先の言葉もここから引いた。

もう一冊は、『ブルーピリオド』の最新巻。いま人気の漫画らしい。主人公は、勉強にも友達つきあいにも手を抜かない、しかし生きていく実感が得られない金髪ピアスの高校生。授業の課題で描いた絵がほめられたのがきっかけで、藝大をめざす。当初は、絵は趣味でいい、食べて行かれる保証がないのなら美大に行く意味はあるか? と懐疑的だったが、美術の教師に、それは大人の発想だ、好きなことのために努力できる者は最強なのだ、と助言され、その気になる。『ブルーピリオド』を読んでいると、自分の中に隠れていたもの、

ほめられたらその気になってしまふものを、思い出させ、感じさせてくれる。これも本を読む大きな楽しみだ。好きなこと、子供のころ夢中になったことがいまに続いていないのは、つまりはそれが年をとることなのだ、とつい大人の発想をしてしまつが、続いているからといってなくなつたわけではないだろう。暗い部屋で物が見えなくなつたからといって、物がなくなつたわけではないと同様で。

と、年甲斐のないことを書いたが、体の暗がりでは、下リエスカレーターを一步一歩昇るような、なしくずしの無力感で衰えが自覚されている。他方、心は脳が生み出しているのではない、という理論を信じれば、心は年をとらない。私はそう考え、いまも、それこそ高校生の頃と変わらない気持ちでいる自分を不思議にも思わない。

(細井弘)



『ブルーピリオド』  
山口つばさ・著／講談社

## 都内区市町村ボランティア・市民活動センター向け 第2回アンケート調査結果

東京ボランティア・市民活動センターでは現在の新型コロナウイルス対応に関して、都内区市町村ボランティア・市民活動センターを対象に緊急アンケートを実施しました。このうち、第2回目の調査の結果についてご紹介します。ほぼ同時期に行った居場所や介護者支援団体、民間相談機関連絡協議会の会員団体、民間助成団体についてのアンケート調査結果については、特集記事に掲載しています。

- (1) 期日：2020年4月16日～4月24日
- (2) 対象：都内ボランティア・市民活動推進団体 85団体
- (3) 回収率：54.1% (46団体)
- (4) 項目

- ①新型コロナウイルスに関する各センターの閉館、利用制限、職員体制の状況
- ②各センターにおける事業実施の際の感染防止対策
- ③ボランティア・市民活動団体が取組みを行う際の工夫や配慮
- ④新型コロナウイルスに伴う活動自粛についての市民活動団体からの相談対応事例

### 調査結果の主なポイント

#### ○センターの開館状況

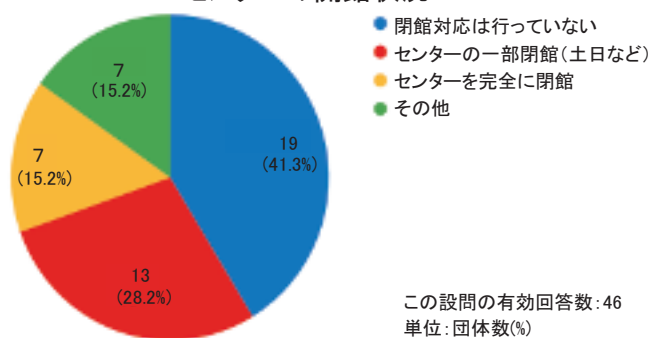
「閉館対応は行っていない」が4割、3割弱が「センターの一部閉館（土日など）」と回答。完全に閉館したのは15%でした。

#### ○センター利用の制限、事業の中止・縮小

・9割のセンターが「会議室・活動室等の利用中止」と「センター主催のイベントの中止」を行っています。また、7割の団体が「フリースペース、作業室・印刷機の利用中止」と「センター主催の会議中止」をしています。

・相談対応・手続きとしては、メール・電話対応は継続、個別対応は実施、郵送等で手続き対応、など人と極力会わない形で継続しているという回答がありました。

### センターの開館状況



#### ○職員の出勤体制について

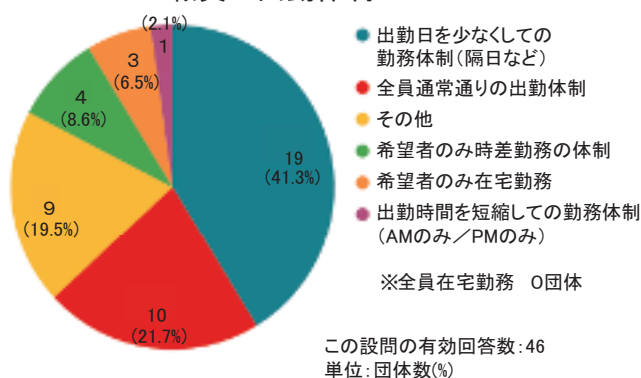
・2割が「全員通常通りの出勤体制」で、残りの8割は何らかの形で出勤体制を変更し、密集を避けたり、通勤頻度を減らしたりする手段をとっています。

#### ○今年度の事業方針や中止・縮小事業について

・中止事業では、①イベント系、②講座・講習会、③夏体験ボランティア、④交流会、⑤広報誌の発行が多く挙げられました。

・事業は中止にせず延期対応にしているという方針のセンターや、講

### 職員の出勤体制について



習会を延期しているとの回答がありました。事業を縮小したり、方法を変えて実施しているという回答もありました。

・事業が活動停止状態もしくは検討中というセンターもあり、何も取組みを進められないという厳しい回答もみられました。

・「再スタートに向けての検討を始めた」というセンターがある一方、「年度計画の修正・見直しをしなければならぬ」、社会福祉協議会を母体とするセンターでは「貸付担当への応援を優先している」、また「行政の方針による」という回答もありました。



○様々な団体や個人からの相談対応事例

・「支援活動をしたい」「新型コロナウイルス関連でボランティアしたい」という相談が多く挙げられました。

・困りごとの相談では、話し相手の希望やマスクの寄付の依頼、低額のお弁当宅配をしてくれる団体を知りたいなど、新型コロナウイルスに関連するものばかりという回答もありました。

・NPO・ボランティアアグルーの運営相談では、総会の開催方法、運営資金に対する不安などが挙げられました。

○ボランティア・市民活動の工夫

・さまざまな団体が既存の取組みを工夫して活動を継続しているそうです。例えば、電話やオンラインなどを使用しての安否確認、動画・オンラインによる活動情報発信、会食から配食への切り替えのほか、切手の整理や発送作業を自宅で行っている、屋内活動を屋外で行うなどの回答もありました。

・新たな活動として、「フードドライブを始めた」「テイクアウトできる店のマップを作成」「飲食業への財政支援」などが挙げられました。

・団体運営の工夫では、WEB会議の開催、資料送付による対応がみられました。

・地域の団体にアンケートを実施したり、何ができるか検討しているというセンターもあります。

○その他

・「自粛対応で生活に困る方へのニーズが増える」ほか、ボランティア活動者に対しては「長期活動がないことからモチベーションの低下がおきるのでは」と危惧する声がありました。一方、「団体がさまざまな工夫で活動を継続する姿を見て、センターとして市民の姿に勇気づけられた」「いまは知恵を絞る時期だ」という声もありました。

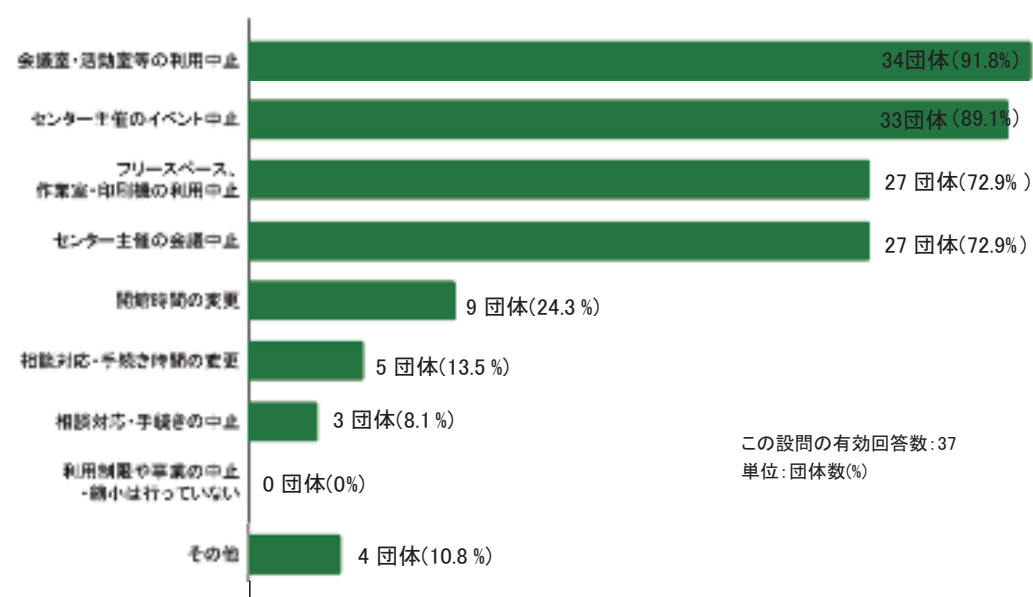
・センターの事業運営に関する意見では、多種多様な困難を訴える声がありました。事業実施（中止）の判断やテレワーク調整の難しさ、事務所の感染対策への不安、また、自粛が続くとセンター運営への影響が大きいといった回答もありました。

・東京ボランティア・市民活動センターに対する意見としては1回目のアンケートと同様、「他地区のボランティアセンターの動向が知りたい」「再開期に向けての注意点やアイデアを発信してほしい」という回答もみられました。

緊急事態宣言解除となり、現在はまた新たな局面が始まっています。

東京ボランティア・市民活動センターでは、今後も他地区のボランティアセンターと課題や情報を共有し、発信をしていく予定です。

センター利用の制限、事業の中止・縮小  
(複数回答可)



# 読者の声

～本誌365号より～

読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介します。

## ◆特集：市民がつくるスポーツ・コミュニティ

・キンボール、共生共走マラソンとも「楽しそう」「やってみたい」と思う反面、競技のイメージがつかみきれないので、図解があったらよかったです（複数の方から寄せられたご意見です）。

・Asportは、状況に合わせてプログラムを常に変化している柔軟さ、地域に必要なことをキャッチしての企画など、感心しました。

## ◆あすマネ：世代交代、みんなはどうしてる？

・グラフ付きで内容がわかりやすかったです。団体を続けることが目的ではなく、解散の道もあるというのはとても同意できます。

・どんな業種においても課題の一つだと思えます。今の70～80代の方は元気です。まだまだやれてしまうのも世代交代の難しいところかもしれません。

## ◆思い立ったがバラ日…

### 日本語グループWAIWAI

・大所帯だけど活動内容が整理されているし、委員会や定期的な交流の場

などもしつかりしているのが長年続いているんですね。日本語を教えるにあたり、共通のルールとか意識されていることはあるのでしょうか。レベルアップの方法や外国の方の声もきいてみたいです。

## ◆TVAC News..

### 企業ボランティアの祭典2020

・企業の社会貢献を堂々と表彰するって素敵だし、見える化にもなるしいなと思います。

## ◆セルフヘルプという力：難病の制度と支援の谷間を考える会

・周囲の人やボランティアが、どうしても気づけないことがあります。悩んでいる人たちが安心できる居場所がたくさん増えたらいいなと思いました。

## ◆いいものみい〜つけた!..

### おだまき工房

・素敵な品々ですね！バッグの寸法や値段、ネット販売や店舗の有無といった情報が掲載されていると購買につながると思います。

・写真がくすんでいること、HPで見たらお店も素敵だったけれどその写真がないのは残念。

## 東京ボランティア・市民活動センター

(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)

<http://www.tvac.or.jp>

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

### 利用

会議室	会議室A・B(各40人)・C(15人) 無料 ※会議室AB通し(80人)
貸出機材	印刷機(2台)紙持ち込み、点字プリンター 他
申込み	4ヶ月前から電話で受付(03-3235-1171)

### 情報提供

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。 <http://www.tvac.or.jp/>

### 開所時間

火曜日～土曜日: 9時～21時 / 日曜日: 9時～17時  
(月・祝祭日・年末年始除く)

### 交通アクセス

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 出口B2b)  
飯田橋駅下車

## ネットワーク

は、ボランティア・市民活動を広げ、  
応援する情報誌です!

【次回予告】2020年7月下旬発行予定

## 特集 新型コロナウイルスとボランティア・市民活動2(仮題)

発行人 山崎美貴子

編集委員 五十嵐美奈(興望館)

上杉貴雅(オレンジフラッグ)

江尻京子(東京・多摩リサイクル市民連邦)

齋藤啓子(武蔵野美術大学 造形学部教授)

シュール大学 社会学ゼミ(東京シュール シュール大学)

中原美香(NPOリスク・マネジメント・オフィス)

まつばらけい(フリーライター)

渡戸一郎(明星大学名誉教授)

編集・発行: 東京ボランティア・市民活動センター  
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
セントラルプラザ10階  
TEL: 03-3235-1171 FAX: 03-3235-0050  
E-mail: [nw@tvac.or.jp](mailto:nw@tvac.or.jp)

印刷: (株)丸井工文社

デザイン: 東京ボランティア・市民活動センター / (株)丸井工文社

表紙イラスト: フローラル信子

2020年5月20日発行(通巻No.366)

ISBN 978-4-909393-21-0 C2036

371円+税

本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。



# いいもの みい〜つけた!



1

このコーナーでは、ボランティア・市民活動・福祉施設のグッズや作品を紹介します。

Vol.  
25

## ホープ就労支援センター渋谷 アトリエ福花(ふっか)

アトリエ福花は2016年に開設した就労継続支援B型事業所です。

様々な障害を持つメンバー11人が通所しています。それぞれの個性を生かして、アーティスティックな製品を作っています。バッグ、アクセサリ、ぬいぐるみ等どれもオリジナルの一点物です。

また、渋谷区と施設とデザイン学校の学生の連携によるプロジェクト「シブヤフォント」にも参加しています。メンバーの描いた絵や文字をパブリックデータとして広めていく活動です。「シブヤフォント」を使った製品は「渋谷みやげ」として、昨年オープンした渋谷スクランブルスクエアの展望台でも販売されています。



2

## ホープ就労支援センター渋谷 アトリエ福花(ふっか)

所在地 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-16-1

TEL 03-6300-5240 FAX 03-6383-3255

E-mail [fucca@hopewwj.org](mailto:fucca@hopewwj.org)

HP <http://www.hopewwj.org/jobassist.html>

<https://www.facebook.com/shibuyafucca/>

1 イラストを刺繍に! 2人のコラボ作品です。

2 チョイスがユニークないきものシリーズ。

3 ビーズのブローチと手描きのトートバッグ(ランチボックスサイズと大きめショルダー)

4 シブヤフォントのモヤイ像のビッグトートバッグ(515×570mm)



3



4



Sompo Welfare  
Foundation

# 公益財団法人 SOMPO福祉財団

## 2020年度主な助成金の募集(公募)

社会福祉分野で活躍するNPOへの助成などを通じて、  
地域福祉の向上に貢献することを目指しています。

事業名 (募集時期)	事業の内容	対象となる団体 対象地域・助成金額
自動車購入費助成 (6/1~7/10)	自動車を購入する際の資金を助成	・特定非営利活動法人 ・西日本地区に所在する団体 (2019年度は東日本地区) ・1件120万円上限(総額1,200万円)
<b>コロナ感染防止支援活動応援</b> NPO基盤強化資金助成 住民参加型福祉 活動資金助成 (6/1~6/19)	地域住民が主体となって、包括的な支援を行なう活動に必要な資金を助成 <b>※コロナウイルス感染拡大防止に伴う支援活動も対象</b>	・5人以上で活動する営利を目的としない団体、法人格の有無は不問(社会福祉法人は除く) ・ <b>日本全国</b> ※予定していた東日本地区から拡大(2019年度は西日本地区) ・1団体30万円上限(総額550万円に増額)
NPO基盤強化資金助成 組織および事業活動の 強化資金助成 (9月~10月上旬予定)	「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成	・特定非営利活動法人、社会福祉法人 ・ <b>東日本地区</b> に所在する団体 (2019年度は西日本地区) ・1団体70万円(総額1,000万円)
NPO基盤強化資金助成 認定NPO法人 取得資金助成 (9月~10月上旬予定)	認定NPO法人取得に必要な資金を助成	・認定NPO法人の取得を目指す社会福祉分野の特定非営利活動法人 ・ <b>日本全国</b> ・1団体30万円(総額450万)



### 自動車購入費助成

新しい自動車でのお迎えが楽しみ♪



### 組織および事業活動の強化資金助成

作業所新築にともなう事務室設備でネット注文拡大!

### 住民参加型福祉活動資金助成

パソコンでお絵かきを教えてもらおう♪



### 認定NPO法人取得資金助成

子どもたちの心身ケアや遊び場を提供。認定取得により地域の信頼強化に!



※損保ジャパン日本興亜福祉財団は、SOMPO福祉財団になりました。  
SOMPO福祉財団Web ⇒ <https://www.sompo-wf.org/>

ISBN978-4-909393-21-0 C2036 ¥371E